

Publishers & Founding Editors
ROBERT MOSES & EDDIE STERN

Advisors

DR. ROBERT E. SVOBODA
MEENAKSHI MOSES
JOCELYNE STERN

Editors

MEENAKSHI MOSES
EDDIE STERN

Design & Production

ROBERT MOSES
EDDIE STERN

Diacritic Editors

VYAS HOUSTON
ISAAC MURCHIE

Circulation & Distribution

YOUNGBLOOD ROCHE

Assistance from

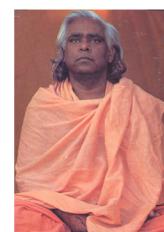
DEBORAH HARADA
RACHAEL STARK

Website Development

MATT ALEXANDER
KENDAL KELLY
ROBERT MOSES



SRI K. PATTABHI JOIS



SRI SWAMI VISHNU-DEVANANDA

NĀMARŪPA uses diacritical marks, as per the chart shown to the right, for the transliteration of all Saṁskṛta words. While many of the articles do contain these marks, it is not a universal occurrence in the magazine. In those cases where authors have elected not to use diacritics, Saṁskṛta words remain in their simple, romanized form. Chart by Vyaas Houston.

Barry Silver: Narayan & Me

अ	आ	श	ष	उ	ओ	ऋ	ऊ
a	ā	i	e	ai	o	āṁ	au
ऋ	ऋ	ए	ए	ऐ	ওঁ	অং	অঃ
r̥	r̥	ɛ	ɛ	ai	o	am	ah
ক	খ	গ	ঘ	ঘ	ঞ	ঙ	ঊ
কা	খা	গা	ঘা	ঘা	ঞা	ঙা	ঊ
চ	ছ	জ	ঝ	ঝ	ঞ	ঙ	ঊ
চা	ছা	জা	ঝা	ঝা	ঞা	ঙা	ঊ
ট	ঠ	ঢ	ঢ	ঢ	ঢ	ঢ	ঢ
টা	ঠা	ঢা	ঢা	ঢা	ঢা	ঢা	ঢা
ত	থ	ধ	ধ	ধ	ধ	ধ	ধ
তা	থা	ধা	ধা	ধা	ধা	ধা	ধা
প	ফ	ব	ভ	ব	ভ	ব	ম
পা	ফা	বা	ভা	বা	ভা	বা	মা
য		ৰ		ল		ৱ	
যা		ৰা		লা		ৱা	
শ		ষ		স		হ	
শা		ষা		সা		হা	
ঞ		ঢ্ৰ		ঞ			
ক্ষা		ঢ্ৰা		ঞা			
		ঢ্ৰা					

NARAYAN AND ME

BARRY SILVER



ナラヤンと私
バリー・シルバー
翻訳：宮村 葉

この記事はNAMARUPA issue no.9（2009年発行）に掲載されたものです。NAMARUPA共同発行人であるエディ・スターントンおよびロバート・モーゼスの同意のもと翻訳・配布しています。

初めて南インド・マイソールを訪れたある日の午後、私のNYでのアシュタンガヨガ教師である、エディ・スターントン（このNamarupaの共同犯行人）からランチに誘われダウンタウンへと向かった。食べ終わると、私が気に入りそうなヒンドゥの古い写真や絵・ポスターなどを販売する店があるから見に行こうということになり、そこへと向かった。着いてみるとそれはお店というより木製のおんぼろな屋台だった。デヴァラジャス・マーケット、K.R.サークル側にあるその屋台からは、収まりきれない商品がパーキングにまで溢れ出しているような有様だった。私は店主の優しい目と根っからの親切、そしてダークチョコのように濃い肌の色と、それとは対照的にミルクのように真っ白なクルタのコントラストにすぐさま引き込まれた。彼の名はナラヤン。あのマイソールの埃にまみれたダウンタウンで、どうやったら彼のようにクルタを真っ白に保てるのか、私はいつも不思議に思っている。

私にはそれまで日記をつけるという習慣がなかったが、この時はNYを発つ前にモレスキンのノートを購入し、人生で初めて日記をつけてみようと持参していた。しかし私は書く代わりに時差ぼけで眠れないインドでの最初の数夜を、滞在先にあった古い旅行雑誌を破ってはそのノートに貼付けて過ごしていた。あげくの果てにはマッチ箱やショップのレシート、レストランのナプキンや自分の写真など、ありとあらゆる貼付けられるもの全てを貼付けていった。その後ハサミとセロテープにカラーペンを手に入れると、早朝に行われるヨガの練習後は、ほとんどの時間をこのコラージュを制作することに費やしはじめていた。そんな時、ナラヤンの店を訪れたのはまるでスロットで当たりを引き当てたようなものだった。

こうして私はコラージュの材料を調達しようとナラヤンの店に足繁く通うようになった。彼は私の好みが他の客が求めるような、大きな絵やポスターではないことにすぐに気づいたようだった。おかしな物であればあるほど私は気に入り、現地の古い漫画や雑誌に広告、野球カードサイズのさまざまなヒンドゥ神のプリント（私はいつも束で購入していた）、他にはマイソールのマハラジャや、南インドの婚礼の模様、お寺の祭やチャイ屋台などの古い写真を好んで購入した。その旅が終わる頃ノートは一分の隙もなくコラージュで埋め尽くされ、現在も継続している、私にとってのクリエイティブでありつつ同時にセラピーとも言えるような、自身を表現する手段を得ることができた。これがナラヤンとのその後も長く続く友情の始まりとなった。

NYに戻った後も私はコラージュの制作を続け、翌年再びマイソールを訪れる際には制作に必要な道具をフル装備で出発した。着いて早々、ナラヤンへの挨拶と新らしい商品のチェックにダウンタウンへ向かった私が見つけたのは、以前ナラヤンがいた場所に建つ新しい店だった。困惑して道の真ん中で立ち尽くす外国人を見つけ周囲の店主達は、ナラヤンはラジュカマル・トーキーズ・ロード・ホテルの近く、シヴァラムペットへ移って行ったと教えてくれた。

その後、30分ほどでナラヤンの新しい店の場所を見つけることができた。前のものより状態の良い屋台はしかし、4分の1ほどのサイズしかなくなっていた。しかも商品の多くは私の求めていた古い宝物ではなく、よくある今風のプリントをカラフルなプラスチックフレームに納めたものに取って代わられていて、私は非常に落胆していた。するとナラヤンは最後に彼と会った後に何があったのかを話してくれた。ナラヤンは1959年から以前の場所で屋台の営業を続けていたが、ある日突然火災の危険があるという理由で、警察から立ち退きを命じられたのだ。実際のと

ころは新しく建物を建てるためというのが理由らしかった。警察は立ち退きまで数時間の猶予しか与えず、彼はしかたなく商品を家へと持ち帰ろうと屋台を移動し始めた。周りにいた何人かが手伝いを申し出た。そしてナラヤンが涙ながらに語るには、他の者達は積み上げられた商品の束を奪い、走り去って行った。こうしてナラヤンは彼の在庫コレクションの大部分を失ってしまったのだった。

チャイを何杯か飲み、いつも通りの上機嫌を取り戻したナラヤンは、私に見せたい物があると言い始めた。隣の屋台との間の狭い隙間を通り抜けると、ある中庭へと案内された。庭を囲む建物の2階にあがるようジェスチャーする彼について行くと、青く塗られたボロボロのドアの前に立ち、クルタから鍵束を取り出し南京錠を回した。明かり点けると、そこは全ての壁という壁、床から天上まで、部屋中が山積みにされたインディアン・アートで埋め尽くされていた。

その後の10年、マイソールを訪れるたび、私はその暑さで息の詰まる埃まみれの部屋での宝物漁りにどれだけの時間を費やしたかわからない。ナラヤンはある時は私をそこに一人残し、またある時は共に座りチャイを飲みながら1枚ずつ絵を見せてくれた。「これは、クリシュナ神。これは、女神、ドゥルガー。これは、シヴァ神。」そして頭を振りながら大きな笑顔で「とっても良い神様」と言うのだった。私はコラージュを制作したジャーナルをナラヤンにも見せた。彼は気に入ってくれたと思う。

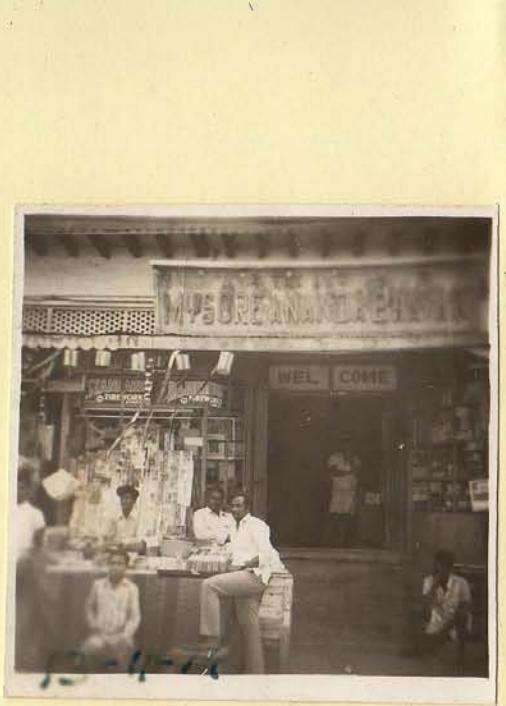
2006年のある午後、ナラヤンは私に写真の入った小さな箱を手渡すと、それを私に持っていて欲しいと言った。中身は古いモノクロ写真で、家族や子供のポートレート、結婚写真、シヴァ派の司祭達、南インド舞踊を踊る若い女性達、サリーで着飾った女性とスーツを来た男性のグループなどだった。そのほとんどが彼の私物で、彼自身の結婚式やマーケット近くのかつての店の写真などもあり、1974年撮影と書いてはあるが実際よりも30年は古く見えるようなものだった。最初私は写真の受け取りを断ったが、ナラヤンは強行に言い張った。彼のもとで箱に入れられたまま埃をかぶるだけになるより、何らかの形で記録されることを望んでいたのだ。ここに掲載されたものは、その日彼から渡されたもの一部である。

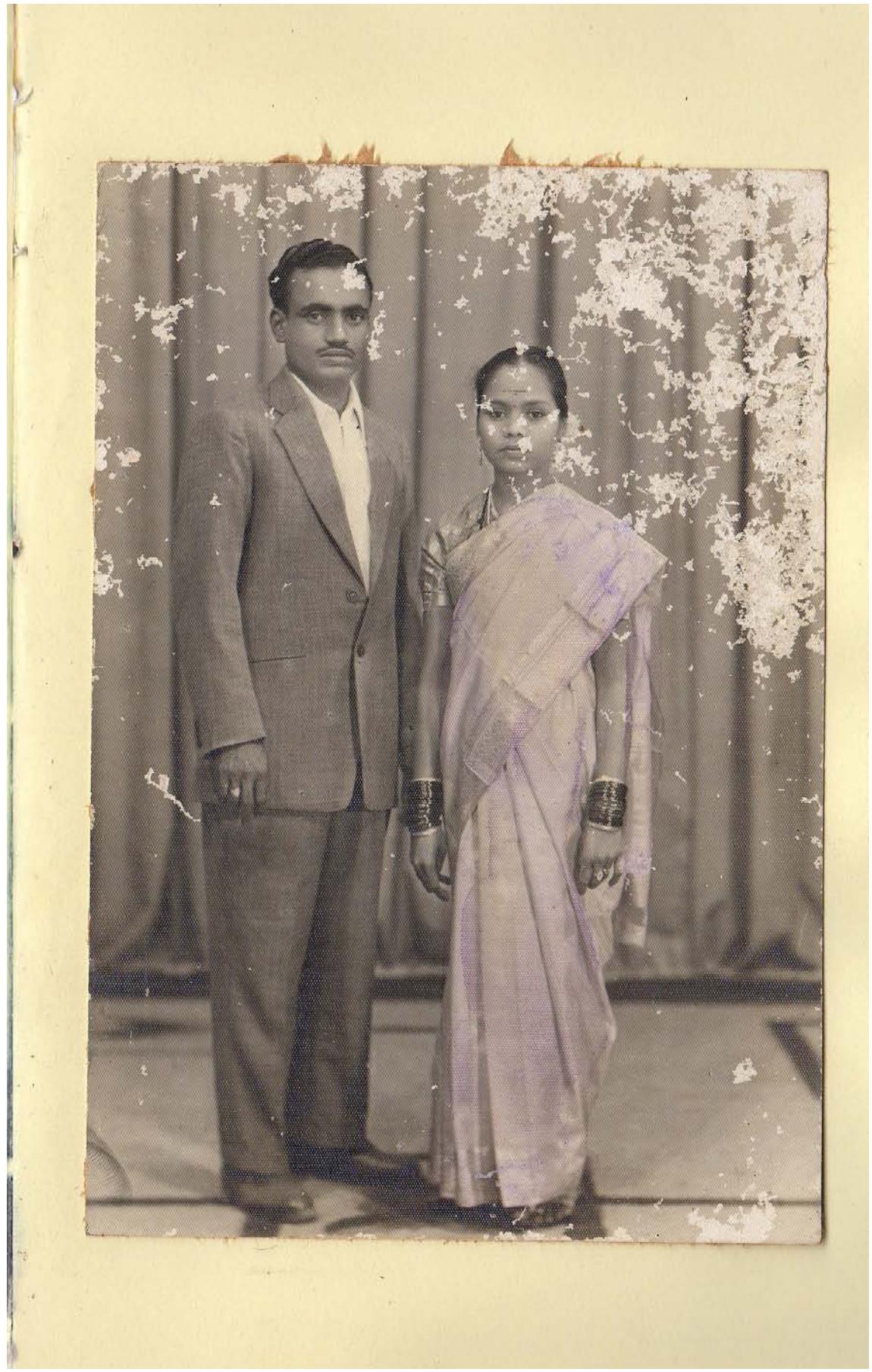
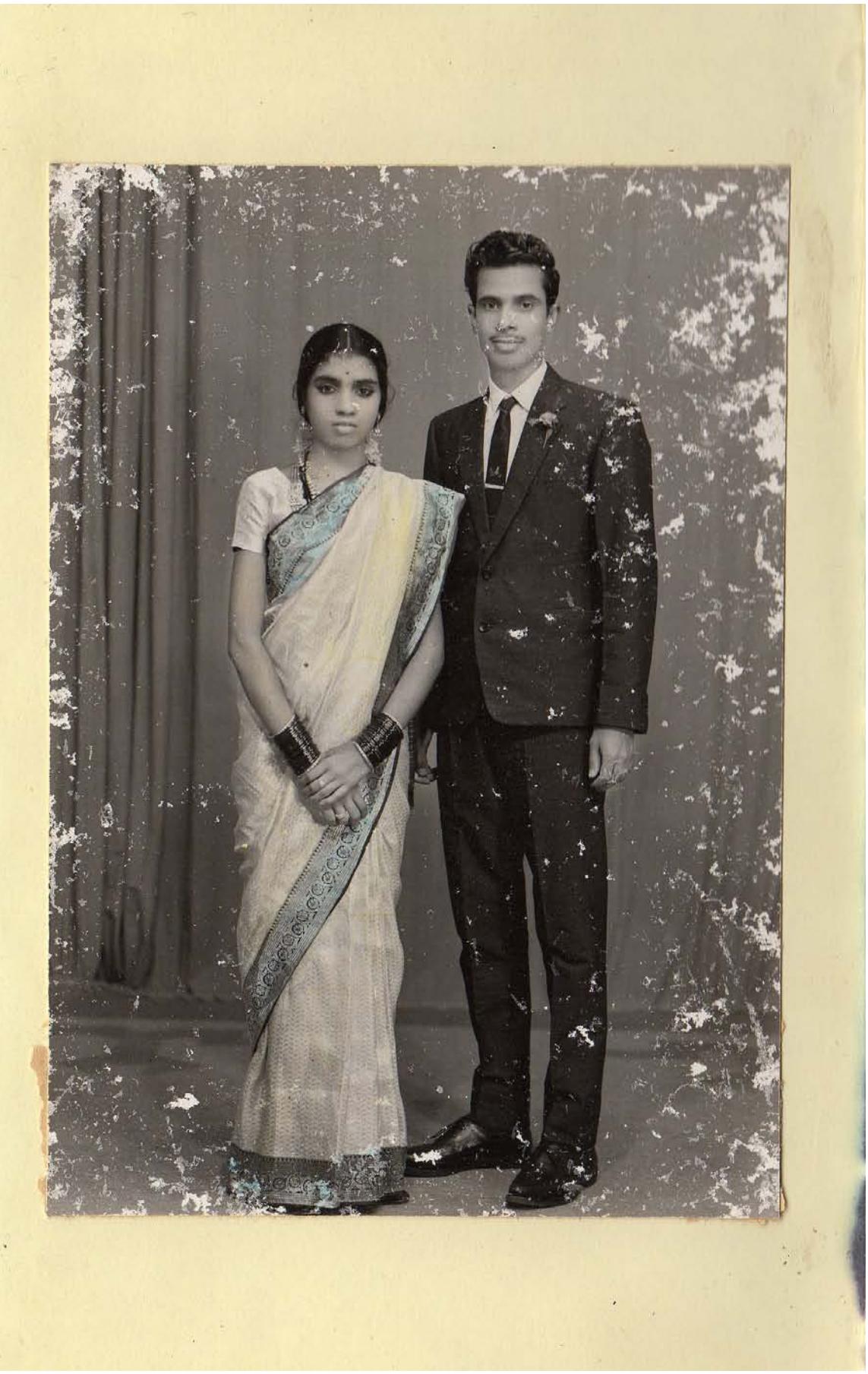
ナラヤンの素晴らしいコレクションの恩恵に与ったのはもちろん私一人ではない。マイソールを訪れる多くのヨガ練習生が彼の店に立ち寄る。彼とのエピソードについて書きたいとエディに話したところ、エディのコレクションの多くもナラヤンの店で手に入れたものだと話してくれた。以前ほど頻繁にマイソールを訪れることがなくなった私は、ナラヤンが今も元気なのかとても心配になることがある。そんな時、日本からのヨガ練習生達がナラヤンの店の前で彼と笑顔で映る写真を見ると、私は本当に嬉しく思う。そしてもちろん、ナラヤンのクルタは相変わらず真っ白だ。

マイソールでは是非ナラヤンの店にお立寄を
A.L.Narayan Frame Works,
The New Mysore Ananda Bhavan Building. Srirampet, Mysore-1

バリー・シルバー：アシュタンガヨガ講師であり独学のアーティスト。NY生まれNY育ち。
2007年から東京に在住。NYと東京のギャラリーでコラージュの展示を行った。























Barry Silver's Photoshop restoration of photograph at left

